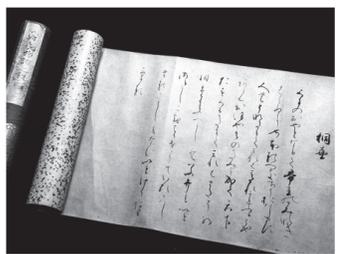




弘前市の名勝、藤田記念庭園を訪れた郡千寿子理事・副学長。岩木山を望む。「弘前に来て「思索する」時間が増えました」

する研究が進む。最近では、地域の精密企業と協力し、「自動採血ロボット」を開発中だ。地域医療では看護師の不足が課題だが、医療者の業務負担軽減の一助となることを期待される。理工系の研究だけでなく、人文系の学問でも連携が進む。弘前市は第二次世界大戦の戦禍で免れたこともあり、貴重な文庫が豊富に残されている。そこで17年度からスタートしたのが「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト。国文学研究資料館（東京都）他との共同事業で、津軽地域に残る歴史資料をデジタル化して公開し、地域資源、観光資源としての活用につなげようとしている。おもに教育学部と人文社会科学部の研究者が連携し、貴重な資料を調査。大学だけでなく、市の教育委員会や市民からのバックアップもある。デジタル化する資料は200点ほどになる予定だ。

人間力が大事な時代 大学の真の価値とは 郡理事はこうした研究成果の社会への還元も、「基礎研究を大事にしてこそ」と強調する。自身も日本語の語彙の歴史を専門とする研究者として、「基礎がしっかりしているからこそ、応用につながる」という確信がある。「大学だからできる研究があります。理事として、改めて大学の役割を問い直しています」と言う郡理事はこう続ける。「やはり最も大切なのは、人を育てること。来るAI（人工知能）の時代は、基礎力がこれまで以上に重要で、人間だからこそその共感力や対話力、創造力の育成が欠かせないと考えています。弘前には長い時間をかけて醸成された文化があり、感性や情緒を育むのに最適な場所です。さらに、地域の課題を新



高照神社蔵「源氏物語の詞」もデジタル化の対象



地元企業も自動採血ロボット開発に協力

しい価値創造のチャンスと捉えれば、弘前大学だからこそできる学び、研究は山のようにあるのです」



弘前大学

Hirosaki University

2019 国公立大学 進学のおすすめ BUILD YOUR FUTURE

地域に学び育てられる 課題全てが研究対象

歴史ある学都・弘前は「自然と都会、新と旧が調和した街。学問と教育を大事にする土壌があります」 弘前大学の郡千寿子理事・副学長は、青森県弘前市の魅力をこう語る。 郊外は雄大な岩木山と、麓に一面のりんご畑が広がり、街の中心部は、かつて津軽藩の城下

町として栄えた歴史と文化の薫りが漂う。明治以降に建てられた洋館も点在し、その街並みは「レトロモダン」と形容される。 1920年に前身の旧制弘前高等学校が設立されて以来、弘前大は弘前市の「知の拠点」としての役割を担ってきた。現在は総合大学として、人文系から理工系まで、5学部7研究科を擁する。

青森の新しい価値を 社会に発信 弘前大がいま特に力を入れるのが、社会にアウトプットする

「自然と都会、新と旧が調和した街。学問と教育を大事にする土壌があります」 弘前大学の郡千寿子理事・副学長は、青森県弘前市の魅力をこう語る。 郊外は雄大な岩木山と、麓に一面のりんご畑が広がり、街の中心部は、かつて津軽藩の城下町として栄えた歴史と文化の薫りが漂う。明治以降に建てられた洋館も点在し、その街並みは「レトロモダン」と形容される。 1920年に前身の旧制弘前高等学校が設立されて以来、弘前大は弘前市の「知の拠点」としての役割を担ってきた。現在は総合大学として、人文系から理工系まで、5学部7研究科を擁する。



共同研究でカシスの成分に健康作用があることを証明

町として栄えた歴史と文化の薫りが漂う。明治以降に建てられた洋館も点在し、その街並みは「レトロモダン」と形容される。 1920年に前身の旧制弘前高等学校が設立されて以来、弘前大は弘前市の「知の拠点」としての役割を担ってきた。現在は総合大学として、人文系から理工系まで、5学部7研究科を擁する。

「本学は横のつながりをもつのにちょうどいい規模と距離。異分野の研究者が集まって気軽に議論する雰囲気があります」と郡理事は話す。特に伝統ある医学と工学の連携は弘前大が得意とする領域だ。理工学部機械科学科には医療産業に焦点を当てた医用システムコースがある。また、理工学研究科に「医用システム創造フロンティア」を設置。他学部や地元企業と連携しながら、医用システムに関

Vice President's Message

【副学長メッセージ】

2020年度、新しい学科と研究科がスタート



吉澤 篤 理事・副学長

弘前大学は2020年度、国家資格である公認心理師の養成を目的とする心理支援科学科を、医学部に新設する予定だ。吉澤副学長は「現代社会は心の問題を抱える人が多く、病院、学校、会社などの場で、心理の専門家が求められています」と、その意図を話す。今後の需要増大が見込まれるにもかかわらず、現在青森には公認心理師の養成機関がない。弘前大では医学部に設置することで、高度な心理学はもとより、医学および保健医療の知識を身につけた心理支援職の養成が可能となる。初年度の学生が学部を卒業するまでに、大学院の研究科を立ち上げる予定だ。 大学院には地域共創科学研究科の新設を予定している。弘前大は16年度からの国立大学第3期中期計画において、「地域活性化の中核的拠点」となることを目標に定めた。以来、青森ブランドの価値を創造する地域人材の育成（COC）や、青森の産業や雇用を

From Alumni

1 大学時代は何でも挑戦。故郷・東北の活性化を願いりんごプロジェクトに邁進

地域活性化に取り組む一般社団法人の一員として、4月からシードルを作る kimori に赴任。りんご栽培の勉強などをしながら、りんごに関する新商品の企画を練ったり、後継者不足や離農で悩む農家の相談に乗ったりしています。私は福島出身。大学1年のときに起きた東日本大震災をきっかけに、地域活性化の仕事を目指しました。大学在学中は国際関係ゼミでの研究、フランス留学、打楽器であるスティールパン部での活動、市内のイベントの企画などに打ち込みました。弘前はやりたいことを応援してくれる町。kimoriでの3年の任期中にりんご産業の担い手を増やす仕組みを作り、他地域にも広めていきたいです。



一般社団法人 Next Commons Lab 弘前 弘前シードル工房 kimori 永井温子さん 人文学部現代社会課程 2014年卒業

2 微生物からキノコに“転向”、日本新産種のキノコも発見「感動を覚えるほど親身に指導」

日本のキノコ研究は動植物研究に比べ遅れており、未知の部分が多くあります。私はキノコの生産・販売を行う企業の研究部門で、品種を特定するDNA鑑定技術の開発に携わっています。世界自然遺産の白神山地にあこがれ、微生物の研究を志し弘前大学に入学しました。その後尊敬する教授から、キノコの研究をすすめる興味とわき、現在につながっています。大学院では白神山地でも日本新産種のキノコ（オソムキタケ）を発見し、論文を発表できました。弘前大の先生方は研究熱心で、感動を覚えるくらい親身に指導してくれました。オソムキタケの発見も、教授や地域の方との交流があったからこそです。

ホクト株式会社開発研究本部 斎藤輝明さん 大学院農学生命科学研究科 農学生命科学専攻 2015年修了



弘前大学 HIROSAKI UNIVERSITY 弘前大学は2019年に創立70周年の節目を迎えました 8月10日 10:00~15:00 事前申込不要 OPEN CAMPUS 開催企画 研究室訪問、模擬授業、在学生との交流、キャンパスツアー、個別相談、体験学習、図書館見学、学食体験 本町キャンパス ●医学部 [医学科、保健学科、心理支援科学科(設置予定)] 文京町キャンパス ●人文社会科学部 ●教育学部 ●理工学部 ●農学生命科学部 お問い合わせ先：弘前大学学務部入試課 〒036-8560 弘前市文京町1 TEL.0172-39-3973-3193 www.hirosaki-u.ac.jp/

2020年4月、医学部心理支援科学科、大学院地域共創科学研究科を設置(予定)。

